



聖書
テーマ
暗唱聖句

ヨハネ 3・1～15

新生への招き

だれでも新しく生れなければ、
神の国を見ることはできない。

ヨハネ 3・3

目標

新生の必要を知り、キリストを
信じて新生の恵みをいただく。

1月3日（日）

聖書
聖句

ヨハネ 3・1～15

だれでも、新しく生れなければ、神
の国を見ることはできない。 3節

「赤ちゃんが生まれました！」とてもうれしい
ニュースです。お母さん、ご苦労様ですね。そ
して、「不思議だなア、素晴らしいなア、新し
い命の誕生」と思います。きょうのイエス様の
み言葉はもっと不思議で、もっと素晴らしいで
すよ。どんなにかわいい赤ちゃんも、教えなく
ても罪を犯す子どもになります。でもイエス様
を信じて新しく生まれると、心に清い命が与
えられて、罪を犯さない人になります。さらに、
何歳の人でも、新しく生まれることができるの
ですから！

いの
祈り

天のお父様、あなたの支配される清い神
の国の命をいただくために、罪を悔い
改めてイエス様を信じたいです。

1月4日（月）

聖書
聖句

ヨハネ 3・1～2

パリサイ人のひとりで、その名をニ
コデモというユダヤ人の指導者が
あった。 1節

真昼、ニコデモさんを見る人たちはみんな、
「ああ、何て立派なお人だろう。ああいう人
になりたいものだ」と、思ったり、言ったりして
いたことでしょう。そのニコデモさんが、夜、
イエス様をたずねてきました。ニコデモさんは
律法もよく知っていたし、物事もよくわかる
リーダーでしたが、イエス様の内にある、自分
にないものに気づいたのでしょう。神様が共に
おられる不思議な力を感じたのでしょう。イ
エス様のもとに来るのは一番良い事です。

いの
祈り

天のお父様、立派と思える人でも一番大切
な神の国の命が必要で、イエス様を求
める人々が起こされますように。

1月5日（火）

聖書
聖句

ヨハネ 3・9

あなたがたは新しく生れなければ
ならないと、わたしが言ったからと
て、不思議に思うには及ばない。 7節

「だれでも新しく生まれなければ」とか、「あ
なたがたは新しく生まれなければならない」と
聞くと、「エッ？ 人がわたしのようになを取っ
て、また生れることがどうしてできますか？ も
う一度、お母さんのお腹にはいつて生れること
などできないでしょう」とニコデモさんが言い
ましたが、私たちだってそう思ってしまうす
よね。「それはちょうど風のようなです。どこから
来てどこへ行くかわかりませんが、霊から生ま
れる人もそうなのです」と言われても……。

いの
祈り

天のお父様、ニコデモさんのようにわたし
も全く同じで、「どういうこと？」とさっ
ぱりわかりません。よく教えてください。

1月6日(水)

聖書
聖句

ヨハネ 3・10～15

ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまたあげられなければならない。 14節

首をひねっているニコデモさんに、イエス様は、モーセと荒野の蛇のことを話されました。旧約聖書に詳しいニコデモさんは、「ああ!」ってわかってきたのです。荒野でつぶやいて、火の蛇にかまれて、毒が回って死にそうな人々が、モーセがあげた青銅の蛇を仰いで見て、生きた!という話でした。「そうか、イエス様はあの青銅の蛇のように十字架にあげられるのか。そのイエス様を仰いで新しく生まれ変わるのだ」とね。ニコデモは新しく生まれたのです(ヨハネ 19・39)。

祈り 天のお父様、わからないわたしたちにもわかるように、霊の大切なことを教えてください。ださることをありがとうございます。

1月7日(木)

聖書
聖句

民数記 21・4～6

へびは民をかったので、イスラエルの民のうち、多くのものが死んだ。 6節

しんどくなったり、だるくなると、イスラエルの民はいつも神様とリーダーのモーセに、ぶつぶつ文句や不平をならべたてました。あなたは大丈夫ですか? せっかく与えられている天からのマナにも、「もうあきあきしました」って。全く、あきれてしまいます。神様は仕方なく、火のへびを民のうちに送られました。おお、恐ろしい! そのへびは民を次々にかんで、多くの民がバタバタ死んだのです。これは今も罪をもって魂が死んでいる人々をさしているのです。

祈り 天のお父様、生まれつきのままの人の姿がよくわかりました。だれもみな、新しく生まれなければならないのですね。

1月8日(金)

聖書
聖句

民数記 21・7～9

すべてへびにかまれた者はその青銅のへびを仰いで見て生きた。 9節

まっ青になって、民はあわててモーセのところに言って叫びました。「モーセさん、そして神様、つぶやいて罪を犯してごめんなさい。モーセさん、どうぞ神様がへびをわたしたちから取り去られるように祈ってください」。神様はモーセに、「青銅のへびを造って、さおのうえにかけるように、それを見て生きるように」と言われました。モーセがさおのうえに掛けたその青銅のへびを、仰いで見た者は生きたのです。十字架のイエス様を仰いで新しく生まれるのです。

祈り 天のお父様、あなたのみ言葉のとおり、十字架を仰ぐと、霊の働きで不思議に新しく生まれることができること、感謝です。

1月9日(土)

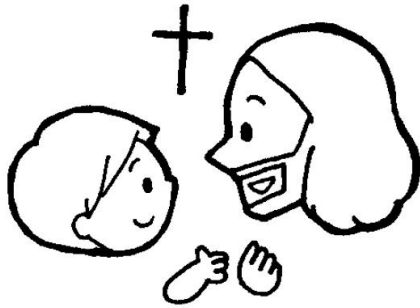
聖書
聖句

Ⅱコリント 5・17

だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られたものである。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。 17節

「だれでも」です。どんな人でもです。お年寄りも、壮年も、婦人も、若い人も、子どもも、貧しい人も、富む人も、どこの国の人であっても、博士も、普通の人も、大罪を犯した人でも、まじめに見える人でも、キリストにあるならば、その人は「新しく造られた者」なのです。つまり、キリストの十字架の前に罪をおわびし、身代わりの十字架を信じるならば、です。新しく清い命に生まれ変わった者なのです。すべてが新しくなりました!

祈り 天のお父様、あなたの新しい命をいただくことこそ、すべての人にとって一番の幸せであることを信じます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 9・21～27

十字架を負うて

だれでもわたしについてきたい
と思うなら、自分を捨て、日々
自分の十字架を負うて、わたしに
従ってください。 ルカ 9・23

目標

十字架に向かい歩まれたキリス
トを覚え、十字架を負い、従う者
となる。

1月10日（日）

聖書
聖句

ルカ 9・23

だれでもわたしについてきたいと
思うなら、自分を捨て、日々自分の
十字架を負うて、わたしに従ってき
なさい。 23節

よく悲しいことや苦しいことがおきると
「十字架を背負ってる」とか、イエス様に従う
ためには、苦しみながら従わないといけな
いって思う人もいます。それホント？

だって、本当に十字架について苦しんだのは
あなたじゃなく、イエス様だもの。

だから、イエス様があなたの罪を背負って
十字架にかかれたことを、どんなときもわす
れず、今までの自分勝手な生き方を捨てて、新
しくなって生きていく、それが自分の十字架を
負う生き方だね！ イエス様ありがとう！

祈り 天のお父様、わたしのための十字架をわ
すれず、生きていきます。

1月11日（月）

聖書
聖句

ルカ 9・21～22

イエスは彼らを戒め、この事をだ
れにも言うなと命じ、そしていわれ
た。 21節

あなたは、イエス様をどんなお方だと思いま
すか？ おねがいを聞いてくださる方？ 病氣
を治してくださる方？ こまったときに助けて
くださる方？ きっと色々思いつくでしょうね。

人はみんな救い主ってこうだね、ああだよ
ね、とイエス様を見つめていたと思うけれど、
イエス様が知ってほしいことはもっとべつ
のことだったって分かるかな？

イエス様はあなたにも「本当のわたしのこ
とを知ってほしい」とねがっておられるよ。

祈り 天のお父様、イエス様が、わたしに知
てほしいとねがわれることを、正しく分
かることができますように。

1月12日（火）

聖書
聖句

ルカ 9・22

人の子は必ず多くの苦しみを受け、
長老、祭司長、律法学者たちに捨て
られ、また殺され、そして三日目に
よみがえる。 22節

人々は、イスラエルを今苦しめているローマ
から助けだすのが救い主だと思っていました。
だから、その救い主が苦しみ、捨てられ、殺さ
れるなんてありえない！と思ったでしょう。

でも、死んで終わりではなくよみがえること、
さらにただの王様ではなく、やがて永遠につづ
く神様の国をおさめる王様だということ、人を
罪の苦しみから解放する救い主であることを、
お弟子さんたちは知ることになるのです。

もちろんわたしたちも！

祈り 天のお父様、イエス様こそ、わたしたち
の王です。

1月13日（水）

聖書
聖句

ルカ 9・23

だれでもわたしについてきたいと
思うなら、自分を捨て、日々自分の
十字架を負うて、わたしに従ってき
なさい。 23節

わたしたちは、自分のため、自分を守るため
にならなんでもしてしまうものです。

でも、イエス様が十字架にかかるときは？
自分がかわいいから、痛そうだからいやだ、で
はなく、ただ神様のみ心が行われますよう
にと従われたんだね。イエス様はすごいね。

あなたも、考えてみてください、自分のた
めではなく、神様のためにできることを。た
とえ小さくても、喜んで従うなら、神様に喜
ばれ受け入れられるはたらきをできるよ。

いの 祈り てん とうさま ちい
天のお父様、わたしも、小さなはたらき
を喜んであなたのためにささげます。

1月14日（木）

聖書
聖句

ルカ 9・24～25

自分の命を救おうと思う者はそれ
を失い、わたしのために自分の命
を失う者は、それを救うであろう。 24節

人は「これがわたしの生きる道！」「わたし
はこうしたいの！」と、自分が今、良いと思う
人生を生きているね。

だけど、本当は自分がどこに向かって歩いて
いるのか分からないでいるのです。たとえ人生
では成功してしあわせに見えても、死んだあと
の世界に持っていくことはできないよ。

本当に見つけなければいけない道は、永遠に
向かって続いていく道だよね。そして、それは
あなたを造ってくださった神様と、イエス様の
救いがあることを知る道です。

いの 祈り てん とうさま さま すく
天のお父様、これからもイエス様の救い
の道を歩ませてください。

1月15日（金）

聖書
聖句

ルカ 9・26

わたしとわたしの言葉とを恥じる
者に対しては…その者を恥じるであ
ろう。 26節

あなたのまわりの人は、イエス様のことをな
んて言うかな？ 十字架で殺された、かわいそ
うな人？ 外国の宗教の人？ 自分にはかん
けいない？ そして、「キリスト教なんて信じ
てんの？」って言われたら、どう思うだろう？

人は弱くて、すぐにまわりの意見に負けてし
まうけれど、負けてはいけないときもあるよ。

イエス様がバカにされ、だれも受け入れない
とき、それでもあなたは恥じてはいけません。

だって、あなたはイエス様がどんなすばらし
いお方か、やがてイエス様にお会いすること
だって知っているから！

いの 祈り てん とうさま さま は
天のお父様、イエス様を恥じず、ほこれ
るわたしでいさせてください。

1月16日（土）

聖書
聖句

ルカ 9・27

神の国を見るまでは、死を味わわな
い者が、ここに立っている者の中に
いる。 27節

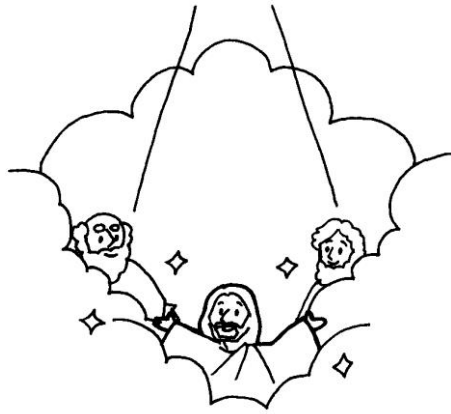
さいきん、人が死ぬと、みんなそろって「天国
にいきました」って言うよね。え～っ？

そう、人は死んでも生きたいし、生きていて
ほしいって思ってるってことだね！

ただ、天国はイエス様をこの世界につかわさ
れた神様のものだね。だからもし、永遠の命を
持っていなかったら、天の国を見ることはでき
ないんだけどな…。

永遠の死を味わわないまま、天の国をたっぷ
りと味わうことができるわたしたちでいたい
ね！そして、知らない人に教えてあげようね！

いの 祈り てん とうさま ひとり おお ひと てん くに
天のお父様、一人でも多くの人と天の国
を味わえますように。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 9・28～36

変貌のキリスト

これはわたしの子、わたしの選んだ者である。これに聞け。

ルカ 9・35

目標

栄光の主が十字架に向かい歩まれたことを覚え、このお方に従う者となる。

1月17日(日)

聖書
聖句

ルカ 9・35

これはわたしの子、わたしの選んだ者である。これに聞け。 35節

世界にはいろんな教えや考えがあふれているね。どれも正しように聞こえてくるけれど、ちょっとまって！

それは神様を喜ばせるもの？ それともあなただけが喜ぶようなもの？

わからなくなったときは、「イエス様に聞く」ことがいちばん！ イエス様に聞くというのは、イエス様に従うってこと。「イエス様ならどうするだろう？」って立ち止まって考え、行いを正しくえらぶこと。

十字架にまで従われたイエス様なら、どんなことも正しくみちびいてくださるね。

いの祈り

天のお父様、イエス様によって、わたしを正しくみちびいてください。

1月18日(月)

聖書
聖句

ルカ 9・28

イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブを連れて、祈るために山に登られた。

28節

あなたは、なにか特別なことがあるとき、神様にお祈りしていますか？

イエス様も重大なできごとの前に、このペテロ、ヨハネ、ヤコブの三人をつれて山へ行き、お祈りされることがありました。

この三人が見ていたから、聖書に大切なできごとが記され、わたしたちもまた、聖書のお話から知ることができるよね。

そして、聖書に記されたイエス様の姿が本物だと、世界中の人が知るまでになったのだから、イエス様の選びつつすごい！

いの祈り

天のお父様、大切なことを見た人によって、イエス様の姿を知ることができ感謝します。

1月19日(火)

聖書
聖句

ルカ 9・29

祈っておられる間に、み顔の様が変り、み衣がまばゆいほどに白く輝いた。 29節

わたしたちは、祈れば祈るほど、真っ白に輝かずに、ドロドロによごれた真っ黒な姿だって気づきませんか？ これが本当の姿とは…。

でも、イエス様はちがうのです。イエス様は祈るほどに白く輝きだすきよいお方だったね。そう考えると、「ああイエス様って本当に神様のひとり子、罪けがれのなきよいお方なんだな～」って思うよ。

そして、こんな真っ黒なわたしのために、ご自分をささげてくださったイエス様に感謝の気持ちでいっぱいになるよね。

いの祈り

天のお父様、きよいイエス様をわたしのために与えてくださり感謝します。

1月20日（水）



ルカ 9・30～31

すると見よ、ふたりの人がイエスと語り合っていた。 30節

ふたりの人とは旧約聖書に登場する、イスラエル人ならだれもが尊敬するモーセとエリヤでした。ってことは、旧約聖書の預言とイエス様がつながってるし、イエス様が神様からつかわされているしょうこだってことだね！

でも、その話の中はというと、イエス様の最後のことについて。モーセがイスラエル人をエジプトから引き出したように、イエス様も、わたしたちを罪から引き出すために、ご自分がどんなにか苦しい道を歩まねばならないか話し合っていたのです。

いのちの祈り 天のお父様、信じ尊敬されてあたりまえのお方が、わたしたちのために苦しみの道を歩まれたことを感謝します。

1月21日（木）



ルカ 9・32

イエスの栄光の姿と、共に立っているふたりの人々を見た。 32節

なにかすごいものを、自分だけが見たとか、手に入れた、そんなことってありますか？

そんなときには、自分がすばらしく、特別な人間だからって思ってしまうことも…。

でも、本当にすばらしく、特別なのは、自分ではなく、その「すごいもの」のほうだね！

それは、イエス様。イエス様が見せてくださるもの、教えてくださることのすばらしさや、なんのためにあなたを選んでくださったのかに、心の目を集中することが大切なのです。

さあ、あなたはなにを学びますか？

いのちの祈り 天のお父様、イエス様のすばらしさに気づき、その姿や教えから、なくてはならないものを学んでいけますように。

1月22日（金）



ルカ 9・33～34

ペテロは自分が何を言っているのかわからないで、イエスに言った。 33節

だれでも、たのしい時間はいつまでも続いてほしいし、すばらしい人のことは記念したり、おがんでしまったりするね。

ペテロも、イエス様と、モーセとエリヤが、いつまでもここにいてほしいし、みんなに見てほしいと思ったのかもしれないね。

でもそれは、十字架なしのイエス様をおがむことでもあるかもしれません。

イエス様の十字架があって、今のわたしたちがあること、本当のイエス様のすばらしさがどこにあるかがわかるわたしたちでいたいね。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様の本当のすばらしさをわかることができ、ありがとうございます。

1月23日（土）



ルカ 9・35～36

弟子たちは沈黙を守って、自分たちが見たことについては、そのころだれにも話さなかった。 36節

「沈黙」できるって、大切なこと。今、世界を見てみると「わたしが正しい」「わたしこそメシヤだ」「わたしを信じなさい」…そんな「わたし・わたし」っていう声があふれかえっているよね。

でも、本当に大切なこと、真実、正しいことは、「ある時」が来て、ようやくはっきりするものです。それは、「神様の時」！

「わたし」ではなく、神様がわからせてくださる「時」に心をむけてすごしたいね。

いのちの祈り 天のお父様、あなただけが真実を明らかにすることができるお方です。すべてをおまかせして歩みます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 9・51～62

前進への決意

手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくない者である。 ルカ 9・62

目標

決然と十字架に向かわれたキリストを覚え、後ろを顧みず、主に従う。

1月24日（日）

聖書
聖句

ルカ 9・62

手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくない者である。 62節

うっかりよそ見をして、しっばいしたり、けがをしたことはありませんか？

「すき」というのは、はたけをたがやす道具だね、今から土をたがやそうってときに後ろを見てると、そりゃあマズイよね。

イエス様に従いたい人も、イエス様じゃないものに気をとられてよそ見すると、神様の国に「ふさわしくない」って。

まっすぐ、よそ見しないで、ただ天国だけを見て、イエス様についていきたいね。

イエス様がみんなのお手本だ！

いの祈り

天のお父様、よそ見せず、まっすぐに、天国までイエス様と歩めますように。

1月25日（月）

聖書
聖句

ルカ 9・51～52

エルサレムへ行こうと決意して、その方へ顔をむけられ、 51節

「なんとしてでもやりとげる」と心に決めることってありますか？わたしたちが決心するのは、だいたい自分のためばかりだけど、イエス様の決心はちがうね。

すべての人の罪を負って、エルサレムで十字架にかかって、地獄までくだる…そんな決心はイエス様にしかできないよね。

でもね、イエス様の顔は、もっともっと高いところを見ておられました。そう、天国！

わたしたちも、決心が苦しいものになるようなときは、その先にある、天国と、神様からのこたえとに、しっかりと顔を向けていたいね！

いの祈り

天のお父様、イエス様が見上げたように、わたしも天を見上げていけますように。

1月26日（火）

聖書
聖句

ルカ 9・52～53

村人は、エルサレムへむかって進んで行かれるというので、イエスを歓迎しようとはしなかった。 53節

「わたし、あの人きらい、だって…なんだもん」と、ああだから、こうだからあの人はきらいだと、人は言うものです。

けれど、イエス様はどうか。「あなたなんかいやです。歓迎したくありません」という態度をとるその人たちを「じゃあわたしも」と、きらったでしょうか？

いいえ。イエス様は、たとえ人がどうであっても、イエス様を受け入れたくない人であっても、「愛しているよ」と言ってくださり、十字架の道に進んでくださる、そんなお方ですね。

いの祈り

天のお父様、イエス様の愛の大きさを教えてくださり感謝します。

1月27日（水）



ルカ 9・54～56

彼らを焼き払ってしまうように、天から火をよび求めましょうか。54節

「神様、あのいじめっ子をいたい目にあわせてください」なんて、お祈りしたことがある人はいませんか？

イエス様のお弟子さんたちも、サマリア人に火がくだるように、って思ったみたい。

でも、イエス様はそれをしかりました。

たとえ、自分にとっていやな相手でも、しかえしのために神様の力を利用することはよくないことだってわかるよね？

かえってそういう人のために、神様の愛と救いがわかりますようにとお祈りできるあなたでいてください！

いの
祈り

天のお父様、自分にとっていやな相手の人にも、救いがおとずれますように。

1月28日（木）



ルカ 9・57～58

人の子にはまくらするところが無い。58節

どんな生き物にも、帰る場所ってあるよね？
アリにだって巣はあるのに、イエス様には寝る場所さえないと言うのです。

イエス様についていきたいと思った人は、イエス様についていけばきっと良いことがたくさんあると思ったかもしれないね。でも、十字架に進もうとするイエス様の気もちをわかってくれる人は、このとき、神様をのぞいてはだれ一人いなかったのです。

わたしたちも、自分のためではなく、神様と人とのためにご自身をささげられたイエス様の心をわかるようになりたいね。

いの
祈り

天のお父様、イエス様の心を、少しでもわかることができますように。

1月29日（金）



ルカ 9・59～60

あなたは、出て行って神の国を告げひろめなさい。60節

せっかくイエス様が「あなたが必要だよ」って声をかけてくださっても、なかなか「ハイ！」って言えないわたしたち。

「お父さんがだめって言うから」「おともだちとやくそくしたから」「お勉強があるから」「今日（きょう）はぐあいがわるいから」と、イエス様との約束をあとにあとにしてはいませんか？

でも、ほんとうにいちばんにしないといけないのはなんだろう？ イエス様は「あなたは、出て行って…」と言われているよ。そう、イエス様のこと、神様のことだったね！

いの
祈り

天のお父様、言いわけばかりせずに、あなたのこと、イエス様のことをいちばんにかんがえられますように。

1月30日（土）



ルカ 9・61～62

主よ、従ってまいります、まず家の者に別れを言いに行かせてください。61節

いちど決めたことはさいごまであきらめずにビシっとできる人ってすごいね。でもさんねんなことに、人はより道したり休んだりするのが大好きなのです。

おへんじや、出だしはよくても、すぐにポイとなげ出してしまいうならもったいない！

たいせつなのは「つづける」こと！

「イエス様に従います」と言ったなら従いつづけること、信じつづけること、ぜったいはなれないことがどんなにたいせつなことか、もっと感じてください。

いの
祈り

天のお父様、あきらめたりなげだしたりせず、さいごまで従いつづけます！



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 17・11～19

恵みへの感謝

そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、…イエスの足もとにひれ伏して感謝した。

ルカ 17・16

目標

うけた恵みに感謝し、神をほめたたえる者となる。

1月31日（日）

聖書
聖句

ルカ 17・11～19

そのうちのひとは、自分がいやされたことを知り、…イエスの足もとにひれ伏して感謝した。 15～16節

「ありがとう！」「感謝します！」「サンキューベリーマッチ！」ってあなたはよく言いますか？ 声に出して言うとなますます感謝がふれます。だれかに言えば、聞くその人もうれしくなるでしょう。この感謝の言葉を、わたしたちは、もっともっと、神様に言いたいですね。ここでは十人のうちのたった一人だけイエス様のところで感謝したのです。今週は毎日、イエス様によくしていただいたことを感謝しましょう。

いのちの祈り 天のお父様、恵みをたくさんくださって感謝します。他にもあなたからいただいている一つ一つを感謝いたします。

2月1日（月）

聖書
聖句

ルカ 17・11～13

声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。 13節

イエス様がエルサレムへ行かれる途中、ある村のできごとです。なかなかなおりそうもない重い皮膚病の人々が十人いました。彼らはうわさに聞いていたイエス様がその村に入っ

いのちの祈り 天のお父様、この十人の病気の人たちの叫びは、イエス様に届きました。私も信仰をもって必死に求め続けます。

2月2日（火）

聖書
聖句

ルカ 17・14

そして、行く途中で彼らはきよめられた。 14節

イエス様から言われたことには、「ハーイ！」と言って、すぐに素直にその通りにすると、いつも素晴らしいことがおこるのですね。ここの十人の人たちは、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」とイエス様にいわれて、「ハーイ！」と、きっと走って行ったのでしょうか。すると、なんと！ 行く途中でみんなが、「アレレ、スゴイゾ！ なおってるよー！」と気づいたのです。イエス様の偉大なみわざ！

いのちの祈り 天のお父様、イエス様のお言葉にすなおに従う時、なおりそうもない病気さえいやされるとはとてもスゴイです。

2月3日（水）



ルカ 17・15～16

イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリア人であった。

16節

おや？ 九人の方々、何か忘れてはいませんか？ と言いたいところです。十人の中のたったひとり、しかもユダヤ人でなく、ユダヤ人から嫌われていたサマリア人だけが、イエス様のみに帰ってきて、足もとにひれ伏して感謝したのでした。大声で、「ハレルヤー！ 神様、あなたのいやしを感謝します！ あなたを心よりほめたたえます」と叫びながらね。わたしたちも、もしかしたらよく忘れてしまっているかもね。

いの祈り 天のお父様、あなたから祝福されたり、祈りにこたえられた時、あなたに感謝することを忘れないようにお守りください。

2月4日（木）



ルカ 17・17～18

きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。

17節

イエス様も、不思議に思われたのですね。たしか、十人いたはず、しかもみんなきよめられたはず、ほかの九人は、一体どこに行ってしまったのか？ うれしい、うれしいで、きよめてくださったイエス様のことはすっかり忘れ、感謝をおさげしに、イエス様のもとに帰ってくることも全く頭になかったようです。やってきたのはたった一人の他国人！ わたしたちもこの九人のような失敗をしませんように。いつも主に感謝！

いの祈り 天のお父様、あなたからよいものをたくさんいただきっぱなしで知らん顔でなく、いつも一つ一つ感謝できますように！

2月5日（金）



ルカ 17・19

立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ。

19節

イエス様は、この一人のサマリア人に、心をこめて言われました。「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」とね！ え？ イエス様が、十人を全くきよめてくださったのでしょうか？ そのとおりです。でも十人の人たちはイエス様を信じて、言われるとおりにしました。その信仰をイエス様はとて喜ばれました。そして感謝をささげる信仰をさらに喜ばれました。このみ言葉をいただいたのは、この人一人でした。

いの祈り 天のお父様、あなたの喜ばれる信仰がよくわかりました。きちんと感謝をおさげする信仰を持ちたいです。

2月6日（土）



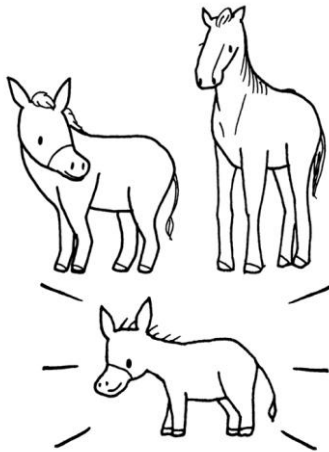
詩篇 100・1～5

感謝しつつ、その門に入り、ほめたたえつつ、その大庭に入れ。主に感謝し、そのみ名をほめまつれ。

4節

一月の月を神様に感謝して、二月の月に入つたこの一週間も守られてきました。この詩篇は感謝の礼拝の詩篇です。わたしたちは神様に造られました。わたしたちは神様のものです。神様は偉大な羊飼いのようです。わたしたちは神様の大きな牧場の中で、守られ、育てられ、養われている羊のような者たちです。たくさん恵みを神様はわたしたちに与えてくださって、身も心も魂も満ち足らせてくださいます。ですからハレルヤ！

いの祈り 天のお父様、いつまでも続く、あなたの恵みといつくしみとまこととのゆえに、心いっぱいあなたをほめたたえます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 19・28～40
主がお入り用なのです。
主がお入り用なのです。

目標

ルカ 19・34
キリストが必要としてくださる
ことを覚え、自分を主におささげ
する。

2月7日（日）

聖書
聖句

ルカ 19・34
主がお入り用なのです。 34節

「お入り用」という言葉の意味、知っていますか？ わかりやすく言うと「必要」という意味。「主がお入り用なのです」というのは、「イエス様にとって、それが必要なのです」ということです。イエス様にも、わたしにはこれが必要！というものがあつたのですね。

わたしたちには、ないと困る、必要なものがたくさんありますよね。勉強するためには、えんぴつが必要。ご飯を食べる時には、おはしが必要、などなど。イエス様にも大切なご用事があつて、必要とされたものがあつたのです。それは何だったのでしょうか。今週も、イエス様からあなたへ、大切なメッセージがありますよ。

いの祈り 天のお父様、イエス様が必要とされたものはなんだったのか、大切なメッセージがよくわかるように導いてください。

2月8日（月）

聖書
聖句

ルカ 19・28～30
まだだれも乗ったことのないろばの子がつかないであるのを見得であろう。それを解いて、引いてきなさい。30節

エルサレムに向かわれたイエス様。オリブ山の近くまで来た時、二人の弟子をつかわされました。つかわされる村に子ろばがつかないであるから、つれて来て、と頼まれたんです。イエス様は、この子ろばに乗ってエルサレムに入ることを決めておられたのです。

この子ろばの初デビューは、イエス様をお乗せすること。子ろばにとって、イエス様のお役に立つことが一番の使命で、そのために選ばれていたからです。あなたもそう。イエス様のお役に立つために、選ばれているのです。

いの祈り 天のお父様、わたしがイエス様のお役に立つ歩みをすることができるよう。

2月9日（火）

聖書
聖句

ルカ 19・30～32
そこで、つかわされた者たちが行って見ると、果して、言われたとおりであつた。 32節

イエス様につかわされた二人の弟子。イエス様が言われたとおりに行ってみると、いました、子ろばが！ 二人は、子ろばをイエス様のもとにつれてくるご用を、無事に完了しました！

イエス様は、大切なご用を弟子たちに任せられたんですね。でも、難しいことは任せていませんよ。イエス様の言うとおりにしたら、ちゃんとできたのです。イエス様は、わたしたちができないことを頼んだりされません。必ずできるように準備をされてから、わたしたちに任せられるのです。

いの祈り 天のお父様、イエス様がわたしに頼まれることは必ずできると信じます。イエス様の言うとおりに行えますように。

2月10日（水）



ルカ 19・33～34

その持ち主たちが「なぜろばを解くのか」と言ったので、「主がお入り用なのです」と答えた。33～34節

ところで、つながれた子ろばには、持ち主たちがいました。当然、弟子たちに「なぜ、ろばの子をつれていこうとするの?」と言ってきたわけです。弟子たちは、イエス様に教えられたとおり「主がお入り用なのです」と答えました。イエス様が子ろばを必要とされている！それを聞いた持ち主たちは、子ろばをつれていくことをゆるしてくれたのでした。持ち主たちも、イエス様のお役にたちましたね。

わたしたちも、イエス様が必要とされていることがわかったら、「どうぞ、お使いください」って、おささげしていきたいですね。

いのちの祈り てんのお父様、イエス様が必要とされるものは、喜んでおささげしていきます！

2月11日（木）



ルカ 19・35～36

その子ろばの上に自分たちの上着をかけてイエスをお乗せした。 35節

弟子たちは、自分たちの上着を子ろばにかけて、イエス様をその上にお乗せしました。ほかの人々もやってきて、イエス様の進む道に自分たちの上着を次々しいていきます。人々は王様を迎える時のように、イエス様を迎えました！

弱々しい、力のない子ろばに乗るイエス様。りっぱな馬じゃなくて変ですか？ いいえ、イエス様は柔和と平和の王様ですもの、戦うことができない弱い子ろばを選ばれたのです。同じようにイエス様は、弱くて欠点だらけのわたしたちを、わざわざ選んでくださるんですよ。

子ろばの上でゆられるイエス様、最高にすきです！

いのちの祈り てんのお父様、わたしが弱くて欠点があっても、選んでくださることを感謝します。

2月12日（金）



ルカ 19・37～40

主の御名によってきたる王に、祝福あれ。 38節

子ろばに乗ってエルサレムに入られるイエス様を、大勢の人々がよろこんでお迎えしました。「主の御名によってきたる王に、祝福あれ！」と賛美の声がりびびきます。ところが、それがおもしろくないパリサイ人が、イエス様に「あなたの弟子たちをしかってください！」と、もんくを言ったのです。イエス様はハッキリ言われました、「この人たちが黙ったら、石が叫んで賛美するでしょう」。

イエス様は全世界のすべてのものから賛美される救い主です。その賛美を止めてはいけなし、誰にも止められないのです。

いのちの祈り てんのお父様、イエス様を心から賛美します。世界中の人々がイエス様を賛美しますように。

2月13日（土）



ルカ 19・28～40

主がお入り用なのです。 34節

教会の先生に「これお願いできる?」とか、「これをやってみてほしんだけど…」と、何か頼まれたことがありますか？ それはきっと、イエス様が「あなたが必要なんだよ」と言っておられるのだと思います。そのほかにも、家で、学校で、いろんなところでイエス様はあなたを必要としておられるんですよ。弟子たちも、子ろばも、持ち主たちも、イエス様は必要とされて用いられました。

あなたもそう。「はい、わかりました」と、喜んであなた自身をイエス様におささげしてください。イエス様は、あなたを通して何かすばらしいことをしてくださるはずですよ！

いのちの祈り てんのお父様、わたし自身をイエス様におささげします。わたしを通して、イエス様のすばらしさが現わされますように！



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 21・1～4
神に喜ばれる献げ物
あの貧しいやもめはだれよりも
たくさん入れたのだ。

ルカ 21・3
すべてをご存じの神に喜ばれる
献げ物をする。

2月14日（日）

聖書
聖句

ルカ 21・1～4
あの貧しいやもめはだれよりもたく
さん入れたのだ。 3節

♪いまささぐるそなえものを、主よきよめて、
お受けください。アーメン♪ わたしたちは
毎週日曜日、教会学校で献金の歌を歌いなが
らおささげします。「イエスは目をあげて……
見られ」とあります！ イエス様はわたしたち
の献金を見ておられるのです！ ここで、一番
たくさん献金を入れたのは、あの貧しいやもめ
（夫が亡くなった婦人）だとイエス様は言わ
れます。えっ!? 最低のレプタ銅貨2枚をささ
げた人ですか!?

いの祈り
天のお父様、本当にあなたに喜ばれる
献金はどのように、どれくらいしたらいい
のか、今週しっかり学びたいです。

2月15日（月）

聖書
聖句

ルカ 21・1～4
これらの人たちはみな、ありあまる
中から献金を投げ入れた。 4節

金持たちがやってきて、さいせん箱に献金を
投げ入れます。ジャラジャラ、ザザーツって。
まわりの人たちは、目をまんまるくして、「ス
ゴイ!」と思いながら、つばを飲んで驚いて
いたかもしれません。投げ入れる金持たちも鼻
を高くして、「どうだ!」っていう思いで入れ
たかもしれません。ところがです。イエス様か
ら見れば、やもめの献金より少ないというわけ
です。それはありあまる中からささげたからで
す。

いの祈り
天のお父様、イエス様の見方と、わたし
たちの見方とは、あまりにもちがってい
ることがよくわかりました。

2月16日（火）

聖書
聖句

ルカ 21・1～4
あの婦人は、その乏しい中から、
持っている生活費全部を入れたから
である。 4節

レプタ銅貨2枚のささげもの、これは献金と
してゆるされていた「最低の金額」だったので
す。それにもかかわらず、そのレプタ2枚をさ
さげた貧しいやもめが、だれよりもたくさん入
れたのだと、イエス様が言われました。という
のは、その献金はやもめの生活費全部だったか
らです。つまり、この婦人は『全部』を、神様
におささげしたというわけです。ですから、だ
れよりもたくさんささげ、神様に喜ばれたので
した。

いの祈り
天のお父様、貧しいやもめの婦人はきっと、
心からあなたに感謝し、喜んでおささげ
したのです。わたしもなりたいです。

2月17日(水)

聖書
聖句

マラキ 3・6～9

しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。 8節

ドロボーがおうちに入った！ そんな恐ろしいことがありましたか？ その時見つけたら、「ドロボー!!」って叫んで追っかけるでしょう。110番に電話するでしょう。何と、神様はマラキという預言者を通して、「あなたがたはドロボーだ！」って、ユダの民に言われます。「わたしのものを盗んでいる」ってね。「え？なぜですか？」と民が言い返すと、「十分の一とささげ物をもって」と神様は言われます。わたしたちは？

いの祈り 天のお父様、あなたの物を盗むなんてことはしたくないです。どうしたらあなたに喜ばれる献金ができるか教えてください。

2月18日(木)

聖書
聖句

マラキ 3・10

わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。 10節

100円玉が10個あったら、わたしのものは9個、つまり900円、神様のものは1個、つまり100円です。これが「十分の一」の献金ですね。へー、神様のものは、たったの一個でいいの？ と思ってしまうませんか？ マラキが預言していたころ、「十分の一」を分けても、それを全部、神様の倉に持ってきて、おささげしようとはしなかったのです。わたしたちはみ言葉にしたがって、おこづかいの十分の一をおささげしましょう。

いの祈り 天のお父様、お金はよい事にも悪い事にも使われます。十分の一を神様の尊いご用のためささげさせてください。

2月19日(金)

聖書
聖句

マラキ 3・10

これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふれる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。 10節

十分の一でいいのです！ 本当に十分の一をおささげして、神様をためしてごらんさない！と言われます。そうすると、神様は天の窓を大きく開いて、あふれる恵みを注いでくださるとの、お約束です。お米や麦を缶の中に入れてゆすってみると…すきまがつんで、「あれ？まだ入るよ」ということになります。そのように、神様はあふれる恵みをゆすり入れてくださるとの、驚くべきお約束なのです！

いの祈り 天のお父様、み言葉に従って、やっているのがとても楽しみです。これからちゃんと十分の一献金をします。

2月20日(土)

聖書
聖句

ローマ 12・1～2

あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。 1節

「神様に最高に喜んでいただけるささげもの」は？ あのやもめさんは、心より神様に感謝し、喜びをもって、そして、神様はきっと必要を満たしてくださるとの信仰をもって、生活費全部をささげました。それは自分自身を、自分の命をおささげすることでした！ 実は、わたしたちのからだも命もすべて、神様からいただいているものです。神様に、ぜ～んぶおささげして当たり前。神様は喜んで受け入れ、用いてくださいます。

いの祈り 天のお父様、小さな貧しいわたしですが、ぜ～んぶあなたにおささげします。あなたの清い御用に用いてください。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 22・39～46

十字架に向かう祈り

しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。

ルカ 22・42

祈りの中で神の御心を選び取る者となる。

目標

2月21日（日）

聖書
聖句

ルカ 22・14～23

しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。

42節

今年のイースターはいつもより早くて3月27日です。その前の20日が受難週の礼拝です。ちょうど一か月先ですね。今は、イエス様の十字架を想うレント（受難節）の季節に入っています。この週はイエス様のゲツセマネでのお祈りを心に深く刻みましょう。ゲツセマネの地名は「油しぼり」という意味です。とても厳しいひびきです。血の汗をしぼりだすような苦しいお祈りの中で、イエス様は「十字架」という神様のみこころの道へ進む決意をされたのです。

祈り 天のお父様、いつでも一番良い心はあなたのみこころです。苦しくてもあなたのみこころに従えますように。

2月22日（月）

聖書
聖句

ルカ 22・39～40

イエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれると、弟子たちも従って行った。

39節

イエス様にはいつも行きつけの秘密の場所があったのですね！ あなたにも「秘密基地」ってありますか？ そこで何をするのでしょうかね？！ イエス様は、いつものようにオリブ山に行かれて、その中でも「いつもの場所」に着いてから、弟子たちに「誘惑に陥らないように祈りなさい」と言われました。そうなのです。イエス様にはいつでもお祈りするための「いつもの場所」があったのです！ あなたはどうでしょう？

祈り 天のお父様、「お祈りできるいつもの場所」ってとても魅力的です！ わたしもそんな場所を作ってお祈りします。

2月23日（火）

聖書
聖句

ルカ 22・14～19

父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。

42節

十字架のアクセサリーがありますが、この時イエス様が向かっていた十字架は、そんなナマッチョロイものではありませんでした！ 「この杯」つまり、むごい十字架を、みこころならばわたしから取りのけてくださいと、実はイエス様は三度も同じ言葉でお祈りされるほどだったのです（マタイ 26・44）。どうしても「十字架」でなければならないものなのでしょうか？と。本当に真剣そのもののお祈りだったとわかります。

祈り 天のお父様、わたしを永遠の滅びから救うための十字架にかかられる前の、イエス様のお苦しみに心がつまります。

2月24日（水）



ルカ 22・43～44

そのとき、御使が天からあらわれて
イエスを力づけた。 43節

「死ぬほどの祈り」だったことが、ほんとによくわかります。ルカはお医者さんでしたが、このゲツセマネの苦しみの祈りについて、どうやって知ったのでしょうか？ よみがえられたイエス様にたずねたのでしょうか？ それにしても、ひとりで祈りの戦いをされ苦しめるイエス様のために、なんと御使が天からあらわれて力づけてくださったのです！ その汗は血のしたたりのように地に落ちたとは何と
いう苦しみ！

いの祈り 天のお父様、あなたが苦しみ祈られるイエス様のもとに御使をおつかわしください。そのことを思い、慰められます。

2月25日（木）



ルカ 22・45～46

誘惑に陥らないように、起きて
祈っていなさい。 46節

一緒にゲツセマネの園に入った弟子たちは、ペテロ、ヤコブ、ヨハネでした（マルコ 14・33）。3人の弟子たちは、あまりに悲しみが深くて、とうとう疲れ果てて、寝てしまったのでした。あなたもわかるような気がする？ とても悲しくてつらいと泣き寝入りしてしまいますよね。イエス様は真剣勝負のお祈りをされていたのに…。誘惑に負けないためには、ちゃんと起きて祈っていなさいとおっしゃられました。

いの祈り 天のお父様、弟子たちの悲しみが伝わってきて泣けてきそうです。でもしっかり起きて祈れる子どもにしてください。

2月26日（金）



ヨハネ 4・31～34

わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわざをなし遂げることで
ある。 34節

「さぞかしお腹をすかせておられるだろう」と、弟子たちはイエス様に「召しあがってください」と言うと、イエス様は「何だか晴れ晴れとしたお顔で、「いや、わたしにはあなたがたの知らない食物があるんだよ」と言われます。「？」と首をかしげる彼らにイエス様は、「みこころを行い、みわざをなし遂げるとい食物だ」と言われました。一人のサマリヤの女の人を滅びの中から救い出すみわざの後でした！

いの祈り 天のお父様、あなたのみこころを行い、みわざをなし遂げることが食物だったイエス様のようにになりたいです。

2月27日（土）



詩篇 40・6～8

わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります。 8節

これはメシヤ（救い主）としてのイエス様の預言の詩篇です。イエス様はいつでもどこでも、どんな時でも、「みこころを行うこと」を喜びました。楽しみとしておられたのでした。神様のおきてがいつもイエス様の心のうちにあったのです。いつも自分のわがままな心でいて、急に突然、神様のみこころを行うなんてことは無理です。いつも、小さいことでも「みこころ」に従っていて初めて大切な時に従えるのですね。

いの祈り 天のお父様、わたしもイエス様のように、ふだんから毎日、あなたのみこころを第一にする生活をさせてください。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 22・31～34、54～62
キリストのまなざし
主は振りむいてペテロを見つめられた。 ルカ 22・61

目標

すべてを見抜いた上で、赦しと回復を与える主のまなざしの中で生きる。

2月28日（日）

聖書
聖句

ルカ 22・31～34、54～62
主は振りむいてペテロを見つめられた。 4節

わたしのことって、もちろん、わたしが一番よく知っているわよ、と言いますか？ ところがそうではないということがこのペテロとイエス様のお話しでよくわかります。「こんなはずじゃなかった…」と、ペテロ自身が一番ビックリしていたのです。その時、そばを通り過ぎて行かれるイエス様が自分を見つめられるまなざしを見ました。ペテロだけが見たまなざし!! ゆるしのまなざしでした。

祈り

天のお父様、ペテロを一番よく知って祈ってくださったイエス様がわたしのことも知っていてくださり感謝します。

2月29日（月）

聖書
聖句

ルカ 22・31～34
わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。 32節

「ふるい」ってわかりますか？ 竹で編んだもので、ゆさゆさゆすったり、空中にあげたりして穀物の殻を飛ばして、中に実だけが残るようにする道具です。ちょうどサタンも、そのように人をふるいにかけて落とそうとします。イエス様は、「シモン・ペテロよ、あなたもそうされて、失敗してしまうよ、でもあなたの信仰だけはなくならないようにお祈りしたから、立ち直ったら兄弟たちを力づけてあげるんだよ」と言われます。

祈り

天のお父様、人はだれでも弱くて、失敗します。でもそんなわたしのために、お祈りして下さるイエス様に感謝です。

3月1日（火）

聖書
聖句

ルカ 22・31～34
主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたと一緒に行く覚悟です。 33節

「とんでもない！ イエス様。サタンのふるいなど何でしょう？ わたしはあなたとなら獄にでも一緒しますよ。たとい死ぬようなことになっても、どこまでもあなたと一緒に行く覚悟は十分にできていますよ」と、ペテロはきつと、キッパリと言ったにちがいありません。もちろん、ペテロは本気でそう言ったのです！ そうするつもりだったのです。本当に。でも自分の本当の姿って、わかっていないのですね。

祈り

天のお父様、「本当のわたし」をあなたは知らせて下さることがよくわかりました。大切だと思います。

3月2日（水）



ルカ 22・31～34

きょう、^{にわとり}鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう。
34節

イエス様は、本当に不思議なお方です。これからペテロの身に起ころうとすることをとても細かくハッキリと言われました。マルコ 14・30 には、「あなたによく言うておく。きょう、今夜、にわとりが二度鳴く前に、そう言うあなたが、三度わたしを知らないと言うだろう」と、なんとにわとりが鳴く回数まで言うておられるではありませんか！ まさに、「全知」、すべてをご存知の神様のひとり子なるお方ですね！

いのり 天のお父様、イエス様の目には、わたしのすべてが丸わかりなのだと知って、あなたにおまかせして歩みます。

3月3日（木）



ルカ 22・54～55

ペテロは遠くからついて行った。
54節

ついにオリブ山のゲッセマネの園で、イエス様は捕えられてしまいました。ひっぱられて、大祭司の邸宅へつれて行かれます。ペテロの心の中が読めるみたいです。イエス様のことがとっても気になる、でも、あまり近づいて行くのも恐ろしい…だから、遠くからついて行ったのでした。中庭のまん中にはたき火があって、人々は一緒にそこにすわっていたので、ペテロも何食わぬ顔をしてそっとすわりました。

いのり 天のお父様、「獄にまでも死にまでもあなたと一緒に」と言ったペテロの気持ちが変化してきているのがわかります。

3月4日（金）



ルカ 22・56～60

ペテロはそれを打ち消して、「わたしはその人を知らない」と言った。
57節

「この人もイエスと一緒にいました」。突然、女の人の声がひびきました。ひとりの女中が火のそばにすわっているペテロを見て、叫んだのです。すると、ペテロはそれを打ち消して、「わたしはその人を知らない」と言ってしまったのです！ ペテロも自分の口から出たことばに耳を疑ったかも。またしばらくしてほかの人に「仲間だ」と言われ「ちがう」と答え、一時間後、三度目に「知らない」と言ってしまったのでした。

いのり 天のお父様、イエス様の言われたとおりになりました。ペテロの心の中はきっと怖い気持ちで一杯だったのでしょう。

3月5日（土）



ルカ 22・61～62

そして外へ出て、激しく泣いた。
62節

「コケコッコー！」 ペテロはハッとしたでしょう。その時、そばを通られるイエス様がふりむいてペテロを見つめられたのでした。じっとペテロの眼をのぞき込むようにして見つめられたのです。ペテロはそのイエス様のまなざしの中で主のお言葉を思い出して、外へ出て、男泣きに激しく泣きました。そのイエス様のまなざしは、ペテロしか知りません。それは「祈ったよ、ゆるしているよ」と語ってくださっていたにちがいありません。

いのり 天のお父様、すべてを見ておられ知っておられ、でもゆるしてくださるイエス様のまなざしのうちを歩きたいです。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 23・13～25
身代わりの十字架
神はわたしたちの罪のために、
罪を知らないかたを罪とされ
た。Ⅱコリント 5・21
キリストの身代わりの十字架
による罪の赦しを受け取る。

目標

3月6日（日）

聖書
聖句

ルカ 23・13～25

神はわたしたちの罪のために、罪を
知らないかたを罪とされた。

Ⅱコリント 5・21

わたしたち人間は、みんな罪の中に生れてき
ました。初めの人アダムのためです。だか
ら教えてもらわなくても、うそもつけるし、わ
がままも言えるし、けんかもできる！のですね。
でもイエス様は全然、罪を知らないし、一つも罪
を犯したことのないお方でした。そのイエス様
が十字架につけられたおかげで殺人犯のバラ
バがゆるされたように、罪深いわたしの身代わ
りにイエス様が死んで罪がゆるされるのです。

いの
祈り

天のお父様、イエス様の身代わりの十字
架を心よりありがとうございます。罪が
ゆるされる喜びを感謝します。

3月7日（月）

聖書
聖句

ルカ 23・13～16

この人はなんら死に当たるようなこ
とはしていないのである。 15節

ローマ皇帝テベリオに任命されたユダヤ州
第5代総督のポンテオ・ピラトは、ユダヤ人が
訴えてきたイエスには、訴えられるような罪
は少しもなかったと祭司長たち、役人たち、
民衆に言いました。その時のユダヤの王ヘロ
デも同じように言って、ピラトから送られてき
たイエスを送り返してきました。「だから、彼
をむち打ってから、ゆるしてやることにしよ
う」と。イエス様は一つも罪を犯されなかつた
ので当たり前でした！

いの
祈り

天のお父様、ひどいさばきさえしたピラト
やヘロデでさえもイエス様にはどんな罪
もみとめられなくて当然でした。

3月8日（火）

聖書
聖句

ルカ 23・17～19

彼らはいっせいに叫んで言った、
「その人を殺せ。バラバをゆるして
くれ」。 18節

なぜか祭があるたびに、ピラトはひとりの
囚人をゆるしてやることになっていたよう
です。それでピラトは「むち打ってから、ゆるし
てやることにしよう」と言ったのです。ところ
がです。ユダヤ人たちは、そんなことはあつ
てはならないとばかりに叫んで言いました、
「その人を殺せ。バラバをゆるしてくれ」と！
バラバ…この人は暴動と殺人の罪で獄にいた
人なのです。この人をゆるせですって…？！

いの
祈り

天のお父様、人間の判断には狂いが多い
です。さらに多く集まる群衆となるとま
すます狂うことがよくわかります。

3月9日（水）

聖書
聖句

ルカ 23・20～21

ピラトはイエスをゆるしてやりたい
と思って、もう一度かれらに呼びか
けた。 20節

ある時には、とてもひどいさばきをしたピラ
トも、このイエス様のことについては、「イエ
スをゆるしてやりたいと思って」いました。そ
こで、もう一度、彼らに呼びかけました、「彼
をゆるしてやることにしてはどうか」と。しか
し、どうでしょう。彼らはますます声高く叫び、
いえ、もうわめきたてて言いつづけました。「
十字架につけよ、彼を十字架につけよ！」と。
恐しい恐しい叫びが響き続けたのです。

いの
祈り 天のお父様、群衆心理とはとても怖い
です。「赤信号みんなで渡れば怖くない」
とは、とんでもない事です。

3月10日（木）

聖書
聖句

ルカ 23・22～23

彼らは大声をあげて詰め寄り、イエ
スを十字架につけるように要求し
た。そして、その声が勝った。23節

それでもまだピラトの良心（みんなの心に
神様が与えていてくださるものですね。悪いこ
とをするとチクチク痛む心です）は、彼らの叫
びを受け入れることができません。それで、三度
目に言います、「この人が一体どんな悪事をし
たのか。死に当る罪は全くみとめられない。ゆ
るそう」と。しかし、です。今度は彼らは大声を
あげるだけでなくピラトに詰め寄り「十字架
に！」と要求します。そしてついに、その声が
勝ったのです

いの
祈り 天のお父様、ひとりの人が、良心の声に聴
き従いぬくことがどれほどに難しいこ
となのか、よくよくわかります。

3月11日（金）

聖書
聖句

ルカ 23・24～25

ピラトはついに彼らの願いどおりに
することに決定した。 24節

ピラトの良心の声は、群衆の声に打ち負か
されてしまいました。そして、三度も頑張った
ピラトでしたが、ついにバラバをゆるし、イエ
スをユダヤ人たちの手に渡すことに決定した
のでした。普通に考えても不可解な、つまり、
とてもわからない、おかしいことです。罪のか
けらもないイエス様が十字架で処刑されて、
恐しい暴動・殺人犯のバラバがゆるされる！
まさに身代わりの十字架そのものだったのだ
ですね。

いの
祈り 天のお父様、このバラバがわたしなのだ
とよくわかりました。イエス様の身代わりの
十字架によるゆるしを感謝します。

3月12日（土）

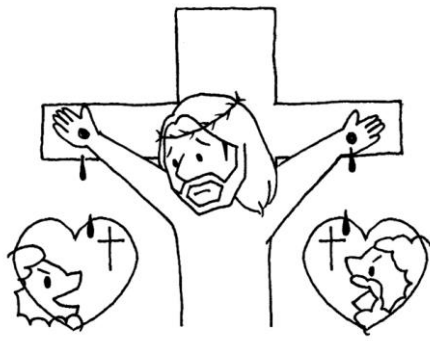
聖書
聖句

Ⅱコリント 5・14～17

生きている者がもはや自分のため
にではなく、自分のために死んでよ
みがえったかたのために、生きるた
めである。 15節

罪深いわたしの罪が、全部ゆるされる所、
それがイエス様の身代わりの十字架です。そ
してそればかりでなく、このように考えると、
パウロは書いています。つまり、イエス様がわ
たしたちすべてのものために死んだことは、す
なわちわたしたちもそこで一度死んだことに
なります。そして、今生きている者はもはや自
分のためでなく、死んでよみがえられたイエス
様のために生きる者とされていますと。本当に
新しい生き方ですね。

いの
祈り 天のお父様、イエス様のために、イエス様
と共に、イエス様を心に生きられる祝
福を本当にありがとうございます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 23・32～38
十字架^{じゅうじか}上^{じやう}での祈^{いの}り
父^{ちち}よ、彼^{かれ}らをおゆるしください。
彼^{かれ}らは何^{なに}をしているのか、わから
ずにいるのです。 ルカ 23・34
キリストの十字架は自分のため
と知り、罪^{つみ}の赦^{ゆる}しを受け取る。

目標

3月13日（日）

聖書
聖句

ルカ 23・32～38

父^{ちち}よ、彼^{かれ}らをおゆるしください。
彼^{かれ}らは何^{なに}をしているのか、わからず
にいます。 34節

わたしにむかって、さんざん悪口^{わるぐち}言^いったり、
暴力^{ぼうりよく}をふるってきたりする人^{ひと}をどう思うで
しょう？「ゆるせない！！」かな？ところが、
この苦^{くる}しい十字架^{じゅうじか}の上^{うへ}で、イエス様^{さま}は、自分^{じぶん}に
つばきしたり、あざけったり、ムチ打^{うち}ったり、
ののしったり、ついには殺^{ころ}そうとしている「彼^{かれ}ら」
のために、父^{ちち}のゆるしをお祈^{いの}りしたのでし
た！！「何^{なに}をしているのか、わからないでい
るのです」から、と！完全^{かんぜん}な無条件^{むじょうけん}のゆるし
と愛^{あい}の祈^{いの}りでした。

いの
祈り

天^{てん}のお父^{とうさま}様、イエス様^{さま}の心^{こころ}の中^{なか}は信^{しん}じら
れないほどの愛^{あい}が、「彼^{かれ}ら」のために燃^もえ
ていたのだと知り心^{こころ}が熱^{あつ}くなります。

3月14日（月）

聖書
聖句

ルカ 23・32～33
人^{ひと}々はそこ^{そこ}でイエスを十字架^{じゅうじか}につけ、
犯罪^{はんざい}人^{にん}たちも、ひとり^{ひとり}は右^{みぎ}に、ひと
りは左^{ひだり}に、十字架^{じゅうじか}につけた。 33節

ゴルゴダ(されこうべ)と呼ばれていた所^{ところ}に
着^つきました。それまでの道^{みち}のり^りを、イエス様^{さま}は
必死^{ひっし}の思^{おも}い^いでご自分^{じぶん}がつけられる十字架^{じゅうじか}を
負^おって歩^{ある}いてこられました。そこには三本^{さんぽん}の
十字架^{じゅうじか}が立^たつことになりました。真^まん^{なか}中^{なか}には
その三人^{さんにん}の中^{なか}でも極^{ごく}悪^{あく}人^{にん}、一^{いち}番^{ばん}罪^{つみ}深^{ふか}い人^{ひと}がつけ
られます。なんとそれはイエス様^{さま}だったの
です！右^{みぎ}と左^{ひだり}には、本^{ほん}当^{とう}に十字架^{じゅうじか}刑^{けい}になっ
て当^あたり前^{まえ}の「犯罪^{はんざい}人^{にん}たち」がつけられました。
本^{ほん}当^{とう}に痛^{いた}みの絶^{ぜつ}頂^{ちやう}だったでしょう。

いの
祈り

天^{てん}のお父^{とうさま}様、三人^{さんにん}の中^{なか}でも一^{いち}番^{ばん}の悪^{あく}人^{にん}とし
て、イエス様^{さま}が真^まん^{なか}中^{なか}の十字架^{じゅうじか}につけら
れた事^{こと}を知^しり驚^{おどろ}きました。

3月15日（火）

聖書
聖句

ルカ 23・34～38

あなた^{あなた}がユダヤ人^{じぶん}の王^{おう}なら、自分^{じぶん}を
救^{すく}いなさい。 37節

十字架^{じゅうじか}のふもとにはいろん^{ひと}な人^{ひと}がいました。
イエス様^{さま}の着^き物^{もの}をくじ引き^{くじ}で分^わける人^{ひと}々^{たち}、立^た
つて見ている人^{ひと}々^{たち}、あざ笑^{わら}っている役^{やく}人^{にん}たち、の
のしる兵卒^{へいそつ}たち…と。「これまで彼^{かれ}は多^{おほ}くの他
人^たを救^{すく}ってきた。もし本^{ほん}当^{とう}に彼^{かれ}が神^{かみ}のキリスト、
選^{えら}ばれた者^{もの}だった^ら、自分^{じぶん}自身^{じしん}を救^{すく}うがよい」、
「あなた^{あなた}がユダヤ人^{じぶん}の王^{おう}なら、自分^{じぶん}を救^{すく}え」と、
あざけり^{あざ}ののし^{のし}の声^{こゑ}です。十字架^{じゅうじか}から降^お
りることが救^{すく}いだと勘^{かん}ちがいしていたのです。

いの
祈り

天^{てん}のお父^{とうさま}様、人間^{にんげん}の知^ち恵^えは、なんと浅^{あさ}
かなものでしょう。そして、その心^{こころ}は冷^{つめ}
たく罪^{つみ}深^{ふか}いものです。ゆるしが必要^{ひつよう}です。

3月16日（水）

聖書
聖句

ルカ 23・34

父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。 34節

「彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」とのイエス様の祈りはズバリ命中！って感じです。この「彼ら」とは、その時十字架のふもとにいた人々だけのことを言っているのだと思いますか？ いいえ、そうではありません。実は、あなたのこともわたしのことも、そう、全人類ひとりひとりのことをさしているのです。わたしたちはみんなわからないで罪ばかり犯しています。そのわたしもゆるしていただけるのです。

いの祈り 天のお父様、イエス様のこのお祈りと流してくださった命の血によってのみ、罪ゆるされる事を感謝いたします。

3月17日（木）

聖書
聖句

使徒7・51～53

あなたがたは、いつも聖霊に逆らっている。それは、あなたがたの先祖たちと同じである。 51節

このイエス様を信じて救われる時、わたしたちもまた、イエス様のように祈ることができるようになれる。ここにはステパノという、信仰と聖霊とに満ちた人が登場します。あまりにも知恵があり、御霊で満ちた人だったのでだれも議論に勝てません。人々はシャクにさわって迫害を始めました。天使のような顔をした若いステパノは、アブラハムから始まるイスラエルの歴史を話し、「あなたがたも不信仰な先祖たちと一緒に！」と語りました。

いの祈り 天のお父様、あなたの聖霊に満たされる時、人々の罪がよくわかり、罪だ！と言える勇気も出ることを知ります。

3月18日（金）

聖書
聖句

使徒7・54～58

ああ、天が開けて、人の子が神の右に立っておいでになるのが見える。56節

ステパノは議会で自分を訴えた人々に、「正しいかたを裏切るもの、また殺す者となった」（52）と、「正しいイエス様を、あなたがたは殺してしまった」と、迫ったのです！ これを聞いた人々は怒り狂って、ステパノに向かって歯ぎしりしました。その中でステパノが天を見つめていると、天が開けてイエス様が神の右に立っておられるのが見えたのです。それを聞いて人々は、叫びながら彼を町の外に引っ張り出して石で打ち殺しました。

いの祈り 天のお父様、迫害されているステパノのために、イエス様は神の右に立って彼を支えたことがわかりました。

3月19日（土）

聖書
聖句

使徒7・59～60

主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせなさい。 60節

小さい石が、一つでもカツンって頭にでも当たったらイタイです。もし血でも吹き出したらゾッとします。この時、ステパノめがけて、小さい石ではありません。持てるだけの大石も飛んできたのでした。それで人が死ぬほどの石打ちです！ その中で、ステパノは祈りました。祈りつづけたのです。「主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせなさい」と！ この祈りは、イエス様の十字架の祈りと全く同じものでした。

いの祈り 天のお父様、イエス様の救いはすばらしいです。わたしも罪ゆるされて、このゆるしの祈りのできる子どもになりたいです。

しゅろ ひ 棕櫚の日



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 23・39～43

十字架による救い

あなたはきょう、わたしと一緒に
にパラダイスにいるであろう。

ルカ 23・43

目標

悔い改めと信仰を持って、
十字架による救いを受け取る。

3月20日（日）

聖書
聖句

ルカ 23・39～43

あなたはきょう、わたしと一緒にに
ラダイスにいるであろう。 43節

きょうは「パーム・サンデー」、棕櫚の主日です。人々がエルサレムに入城される、ろばの子に乗ったイエス様を、「ホサナ！ ホサナ！（わたしたちを救ってください、の意味）」と叫びながら、棕櫚の枝をふってお迎えした記念日です。そして、その週の金曜日に、その叫びは「十字架につけよ！」に変わりました。全人類は、三本の十字架の真ん中の主の十字架でハッキリと右と左に分かれます。救いか？ 滅びか？ あなたはどちらに？

いの
祈り

天のお父様、イエス様の救いの十字架を
感謝いたします。わたしも罪を悔い改め、
イエス様を救い主と信じます。

3月21日（月）

聖書
聖句

ルカ 23・39

あなたはキリストではないか。それ
なら、自分を救い、またわれわれも
救ってみよ。 39節

わたしたち人間は目の前のことしか見えないし、わからない者たちです。イエス様の隣の十字架につけられていた犯罪人のひとりの人が、「キリストなんだろう？！ それだったら、自分を救い、われわれも救ってみよ？！」とイエス様にずーっと悪口を言いつづけました。その人にとっての「救い」とはその場限りの、十字架から降りるということでした。本当の救いは、大きな深い愛のご計画で、それは主の十字架の身代りの死なのです。

いの
祈り

天のお父様、イエス様が周りのあざけりの
声になど気にも止めず、救いの十字架に
とどまってくださり感謝です。

3月22日（火）

聖書
聖句

ルカ 23・40～41

お互は自分のやった事のむくいを
受けているのだから、こうなったのは
当然だ。 41節

「お父さんにお尻ペンペンされても仕方ないよな」って、覚悟したことってあるでしょう？ そういうのを「認罪」といって、とても大事なことです。救われる一歩手前ですよ！ 片方の犯罪人の心に変化があらわれてきました！ 悪口を言いつづける反対側の犯罪人に話しかけます。たしなめたのです。それはちがうだろうって。われわれがこうなるのは当たり前だ、でも「この方は何も悪いことはしなかったのだ」と。

いの
祈り

天のお父様、ひとりの犯罪人はイエス様
のお祈りを聞いてからでしょうか？ 心
の向きが変わったのがわかります。

3月23日（水）



ルカ 23・42

イエスよ、あなたが御国の權威をもっとおいでになる時には、わたしを思い出してください。 42節

イエス様の愛とゆるしに満ちたとりなしのお祈りを聞いて、もうひとりの犯罪人の心の目が開いたのです！「イエスと言われるこの方は、何の罪も犯さないお方だったが、われわれの身代わりに十字架に死んでくださったのだ。この方こそメシヤだ。そうだ、やがて、天の御国が打ち建てられる時が必ず来る。御国の權威をもって、再び来られる時、『わたしを思い出してください、Remember me.』と祈ろう」と。

いの祈り 天のお父様、わたしもきょう心よりへりくだって、Remember me. わたしを思い出してください、とお祈りいたします。

3月24日（木）



ルカ 23・43

よく言っておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであらう。 43節

イエス様の超スピードアンサー！！やがて御国の權威をもっとおいでになる時を待つことはありません。「きょう」とイエス様は言われます！そうです、信じた今！です。あすでも、あさってでもありません。「きょう」です。「よく言っておくが」です。「あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるよ！」と言ってくださいます。イエス様と共にいる所は、どこもパラダイス！犯罪人は感激のきわみだったでしょう。

いの祈り 天のお父様、信じるなら、その場で救われて、天の御国に住む者とされる、これこそグッド・ニュースです！

3月25日（金）



ルカ 23・44～46

父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。 46節

イエス様の救いは、「きょう、今」であると共に、「永遠」です！このみ言葉は、十字架の上で言われた七つの言葉の一番終り、第七言です。十字架の上で救いのみわざを完成されたのち、イエス様は、ご自分のすべてを父なる神様にお任せしながら息を引きとられました。父なる神様のみ手のわざにいっさいをおゆだねされて。やがて復活されたのです！信じるわたしたちもぜーんぶ安心しておゆだねできるのです。

いの祈り 天のお父様、わたしの体も心も霊も、みんな、イエス様のようにあなたにおゆだねして永遠の救いに入れられ感謝です！

3月26日（土）



ルカ 23・47～49

ほんとうに、この人は正しい人であった。 47節

ローマの兵隊の百卒長が、「まことに、この人は神の子であった」と言ったら、マタイ 27・54に記されています。イエス様が苦しい十字架の上で七つのお言葉を言われ、最後には、あまりにもおだやかにご自分の霊を父なる神様におゆだねして、息を引きとられたのを見たからでした。マルコ 15・39にも「神の子であった」と記されています。わたしたちも罪を悔い改めて、神の子イエス様を救い主と信じましょう。

いの祈り 天のお父様、罪深いわたしのために、救い主、神のひとり子イエス様をお与えくださって心からありがとうございます。

イースター



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 24・1～12

よみがえられたキリスト

あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

ルカ 24・5

目標

復活し生きておられるキリストを知り、信じ、お従いする。

3月27日（日）

聖書
聖句

ルカ 24・1

週の初めの日、夜明け前に、女たちは用意しておいた香料を携えて、墓に行った。

今日はイースターです。わたしたちの罪のみがわりに十字架で死なれたイエス様が、よみがえられた記念日！「復活された日」とも言いますね。

その日、まだ夜明け前。イエス様の女弟子たちが、イエス様が入れられたお墓に向かいました。「イエス様が死んでしまった…」。ただ悲しみながら、イエス様の身体に香料をぬってあげようとしていたのです。この後、この女性たちはどんなことを体験したのでしょうか。今週はイースターの朝の出来事を読んでいきます。

いのちの祈り

天のお父様、イースターを感謝します。イースターの出来事を通して、あなたのメッセージをあたえてください。

3月28日（月）

聖書
聖句

ルカ 24・2～4

そのため途方にくれていると、見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。

4節

お墓についた女性たち。見ると、お墓をふさぐ大きな石がころがしてありました。そこで中に入ってみると、なんと、イエス様の身体がなくなっていたのです！ただでさえ悲しいのに、身体がないなんて。女性たちはどうしたらいいかわからず、目の前が真っ暗。悲しみに押しつぶされそうになりました。

その時です。光り輝く二人のみ使いが現れました！何か、すごいことがおきた予感！悲しみやつらいことで真っ暗な心の中に、希望の光を照らしてくださるお方、それが神様。

いのちの祈り

天のお父様、悲しみやつらいときこそ、あなたが希望をあたえてくださることを感謝します！

3月29日（火）

聖書
聖句

ルカ 24・5～6

あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

5節

とつぜん、輝くみ使いたちがあらわれて、女性たちはびっくり！おそろしくて、顔を地面にふせました。み使いが言いました、「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」。いくらお墓をさがしても、イエス様の身体はない。だって、よみがえられたのだから！というのです！

死んだイエス様がよみがえられた?! 絶対にありえないことが起こったのです。死人をよみがえらせるという、人間ではぜったいできないことができる、それが神様なのです！

いのちの祈り

天のお父様、あなたがイエス様をよみがえらせた力があるお方だと知りました。あなたのすばらしさをほめたたえます！

3月30日（水）



ルカ 24・5～7

あなたがたにお話しになったことを
思い出しなさい。 6節

実は、イエス様は、ご自分が十字架にかかれ、三日目によみがえることを前もって話されていたのです。何度も。でも、女弟子たちはそんなことはすっかり忘れていました。それに、まさか本当によみがえられるなんて、信じていなかったのです。み使いの話を聞いた時、女性たちはイエス様の言葉を思い出しました。そして心から信じたのです。

みことばを思い出す、ということは本当に大切なことです。みことばを暗唱するのは、あなたがみことばを思い出すため。聖書のみことばは、本当だ！とあなたが信じるためなのです。

いの祈り 天のお父様、どんな時もみことばを思い出せるように、これからしっかり暗唱していきます！

3月31日（木）



ルカ 24・8～11

墓から帰って、これらいっさいのこととを、十一弟子や、その他みんなの人に報告した。 9節

イエス様はよみがえられた！女性たちは、ほかの弟子たちに知らせるために、お墓からすつとんで帰って行きました。お墓がからっぽだったこと、み使いたちが現れたこと、イエス様の言葉を思い出したこと。見たこと聞いたこと、ぜ～んぶ伝えました！

神様がしてくださったすばらしいことを、人々に伝えることは、とても大切です。教会では、そのことを「証しする」と言いますね。難しいことは考えなくていいですよ。神様がしてくださったこと、そのままを話せばよいのです。

いの祈り 天のお父様、わたしも、あなたがしてくださったことを、人々に伝えたいです。わたしに勇気と力をあたえてください。

4月1日（金）



ルカ 24・11～12

ところが、使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった。 11節

イエス様復活のビッグニュース！「ところが」。他の弟子たちは、女弟子たちがヘンなことを言ってる…と信じなかったのです。ペテロはお墓を見に行きました。確かにイエス様の身体はありません。それでも、「なんで???」とふしぎに思うだけで、まだ信じられないかんじ。

初めは全員、信じられなかったんですね。だって、完全に死んだ方がよみがえるなんて、ふつうはありえないですから。イエス様の復活は、まちがいなく、地球上でいちばん大きな出来事。そして、この復活を信じることは、なによりもすばらしいことです！

いの祈り 天のお父様、地球上でいちばんの出来事のイエス様の復活を、心から信じます。

4月2日（土）



ルカ 24・1～12

そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。 6節

よみがえられたイエス様は、今も生きておられます。これからも永遠に生きておられます。このことを信じる人に、イエス様と同じ永遠の命を与えてくださいます。死んだらおわり、の悲しみをイエス様は打ち破られたのです！こんなすごいこと、ほかにありません。

「あなたは何を信じてるの？」と、もし聞かれたら、「イエス様がわたしの罪のみがわりに死なれたこと。そしてよみがえられたことを信じているよ！」とハッキリ伝える人になってほしいのです。その力は、生きてあなたと共にもらえるイエス様が、かならずくださいます。

いの祈り 天のお父様、イエス様と同じ永遠の命をくださることを感謝します！イエス様の復活を伝える人にならせてください。